

市町村プロセス指標について

市町村プロセス指標(H26年度(概算)/集団・個別)

目標値	現状		課題
<p>〔目標〕 平成29年度</p> <p>全てのプロセス指標において、目標値到達又は許容範囲内</p>	1 精検受診率	<ul style="list-style-type: none"> ・精検受診率は、乳がんが目標値を達成しており、その他も概ね許容範囲以上である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標値を達成するよう、引き続き精検受診率を高めるための対策が必要と考える。
	2 精検未把握率	<ul style="list-style-type: none"> ・精検未把握率は、過去の年度と比較すると、全体的に悪化している。 ・胃がん、大腸がんが引き続き要改善となっており、子宮頸がんや、前年度目標値を達成した部分も悪化している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、精密検査受診の有無を確実に把握できる体制が整える必要があると考える。 ・精検未受診率を下げるため、要精検となった時に必ず精密検査を受けることや精密検査の重要性について十分に伝える必要があると考える。
	3 精検未受診率	<ul style="list-style-type: none"> ・精検未受診率に要改善のものはなく、胃がん・乳がん・子宮頸がんでは目標値を達成している部分もある。 	
	4 要精検率	<ul style="list-style-type: none"> ・要精検率は、胃がん(個別)・大腸がん(個別)、子宮頸がんでは要改善となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・胃がん(個別)・大腸がん(個別)の要精検率は高いが、がん発見率及び陽性反応適中度はおおむね許容値範囲内にあることから、有病率の高い集団が受診している可能性があり、要精検率が高いだけでは判断できない。 ・子宮頸がんは、要精検率と陽性反応適中度が共に要改善であることから、本来は精検が不要な者を要精検と判定している可能性がある。
	5 がん発見率	<ul style="list-style-type: none"> ・がん発見率は胃がんや肺がん(個別)、子宮頸がんでは要改善となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・がん発見率は、精検受診率が低い場合や市町村の精検結果の把握状況に漏れがある場合は正確に評価できないため、まず精検受診率の向上と精検未把握者を減らす対策が必要であると考え。
	6 陽性反応適中度	<ul style="list-style-type: none"> ・陽性反応適中度は、肺がん(個別)、子宮頸がんでは要改善となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・陽性反応適中度は、精検受診率が低い場合や市町村の精検結果の把握状況に漏れがある場合は正確に評価できないため、まず精検受診率の向上と精検未把握者を減らす対策が必要であると考え。

市町村プロセス指標(H26年度(概算)/集団・個別)まとめ

調査で確認された課題について、関連する項目を整理し、次の区分にまとめた。

区分	実施できていないまたは実施が不十分であり改善が必要な項目	県の指導方針
精密検査に関すること	・精検受診率を高めるための十分な対策をすること	・市町村に対して、検診機関と連携して実施するよう指導することとしたい。
	・精密検査受診の有無を確実に把握できる体制とすること	
	・対象者に対する精密検査の十分な説明をすること	
その他事項に関すること	・子宮頸がんは、要精検率と陽性反応適中度が共に要改善であることから、本来は精検が不要な者を要精検と判定している可能性があること	・検診機関に対して依頼・助言することとしたい。